

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 夢中			
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 9日		～	令和6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	5人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 9日		～	令和6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 20日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な環境・スペースの確保 ・利用定員に見合った活動スペースを整備しており、机と椅子のある学習エリアと広い運動スペースを分けて設定しています。 ・階段や危険箇所には手すりなどを設置し、安全面に配慮しています。	わかりやすい環境構成 ・活動内容別に区分けしたスペースづくり(学習・制作エリアと運動エリアなど)をしています。 個別スペースを確保して必要に応じて集団から離れて過ごせる仕組みを用意しています。 ・サービス提供前後に清掃時間を設け、常に清潔な環境を保つよう取り組んでいます。 ・危険防止のためのマニュアル作成や、職員での点検を行い、緊急時対応マニュアルや防災訓練を定期的実施しています。	外部評価・第三者評価の導入検討 ・現状では第三者評価を行っていないため、導入することで客観的な視点から事業所の質をさらに高めます。
2	十分な職員配置と多職種連携 ・児童発達支援管理責任者、保育士、児童指導員、作業療法士などが適切に配置されています。 ・活動内容に応じて職員がチームで連携し、子どもの状況に合わせた支援を実施できる体制があります。 ・社内研修や外部研修を活用し、療育に関する知識や技術の向上を図っています。	支援計画と日々の記録を作成 ・毎日の支援記録を徹底し、翌日の打ち合わせ時に振り返りを行うことで、活動内容や子どもの様子をチーム内で共有しています。 定期的なモニタリングを行い、必要に応じて計画を見直ししています。 ・連絡帳や送迎時のフィードバックを活用し、こどもの状況をこまめに伝達・共有しています。 ・保護者からの相談や意見をできるだけ迅速に対応する体制を整えています。	BCP(業務継続計画)や緊急時対応の継続的な周知 ・職員だけでなく、保護者への周知も強化することで、有事の際の対応をより円滑に行えるようにします。 ・外部研修やスーパーバイズを積極的に活用し、職員の専門性やスキルのさらなる向上を図ります。
3	PDCAサイクルを通じた業務改善体制 ・運営・療育の会議を定期的に行い、職員全員で意見交換・改善を進めています。 ・保護者アンケートや保護者からの意見を積極的に取り入れているほか、職員間でも個別面談・打ち合わせなどで改善案を出し合っています。	SNSや通信等を活用した情報発信 ・月ごとの行事予定や活動報告をSNSで発信し、保護者が事業所の取り組みを把握しやすいよう配慮しています。	地域との連携促進やイベント開催 ・現在は地域交流の場が少ないため、地域住民や他機関との合同イベントを実施し、インクルージョンの観点から子どもたちが他の子どもや大人と関わる機会を拡大します。 保護者同士が情報交換や交流を行う場を定期的に設けることで、家族支援を強化し、親同士の助け合いや学び合いを促進します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部評価(第三者評価)の未実施 ・業務改善において自事業所内の意見は活かしているが、客観的評価を受ける機会がないです。	対外的なネットワーク不足 ・第三者評価を受けるための準備や、他機関・地域との連携を推進するためのリソースやノウハウが不十分です。	第三者評価の導入・客観的視点の取り入れ ・外部機関からの評価や助言を受けることで、自事業所では気付きにくい改善点を発見し、支援の質を高めます。

2	<p>保護者や地域との交流機会の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者間・地域住民との交流イベントを開催していないため、インクルージョンの促進や保護者同士のサポート体制が未十分です。</li> </ul>	<p>保護者の意向や事情</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流や保護者会の開催には前向きでない保護者もあり、実施するうえで配慮が必要です。</li> <li>・イベント開催にあたって人的・時間的コストもかかるため、運営側の負担をどうカバーするかが課題です。</li> </ul>	<p>保護者・地域交流の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模での座談会やオンライン交流会など、無理のない形で保護者同士が情報交換できる機会を創出します。</li> <li>・地域イベントへの参加や共同企画を検討し、地域連携を深めます。</li> </ul>
3	<p>活動が限定的になる可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動プログラムについては多様なアイデアを取り入れているが、固定化を防ぐさらなる工夫が必要です。</li> </ul>	<p>スタッフ体制と専門性の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存スタッフの経験や専門性は一定水準にあるが、さらに専門家や外部のスーパーバイザーとの連携を深める必要があります。</li> </ul>	<p>活動プログラムの柔軟化と新規アイデア取り入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に活動内容を見直し、子どもの状況や興味に合わせて臨機応変に変更できる仕組みを作ります。</li> <li>・社外研修や他施設との情報交換から得た新しいプログラムを積極的に取り入れ、変化のある療育環境を提供します。</li> </ul>